

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要（平成15年度）

学校名	宇佐市立駅川中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数 21
学級数	3	3	3	1	10	
生徒数	88	86	86	2	21	

研究の概要

1. 研究主題

学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成
～基礎学力の定着をはかる指導法の工夫と生きる力を引き出す集団活動を通して～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・1.2.3年生数学
積み上げ学習が重要な教科であり、「とけた、わかった」ということがわかりやすいため
- ・1.2.3年生英語
中学校で学習がスタートする教科であるが、学力差が生じやすいことと会話力向上のため

(2) 年次ごとの計画

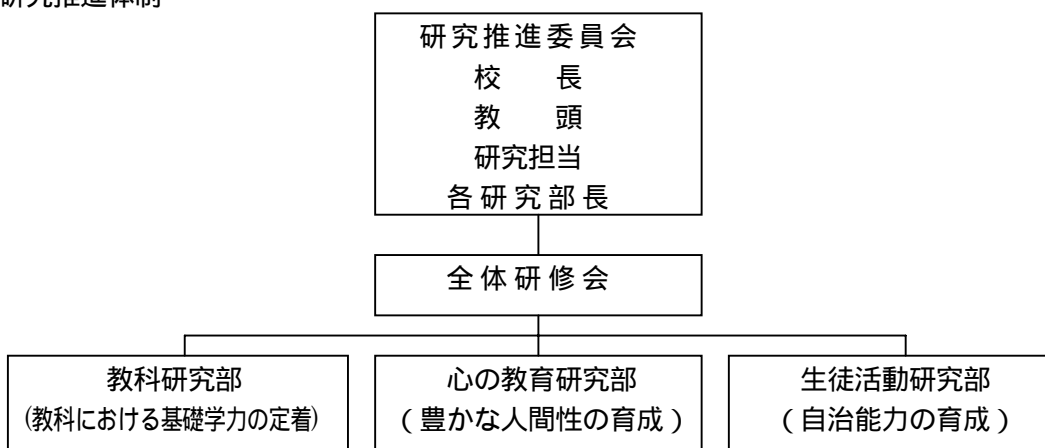
平成14年度	<p>テーマ 学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成 ～学習効果を高める授業形態の工夫と生きる力を引き出す集団活動の在り方を求めて～</p> <p>仮説 少人数学習やチームティーチングの授業形態、短期の授業成果の確認などの学習形態を工夫し、教科学習に対する成就感や集団として取り組む行事の中で生じる葛藤を通し、困難を克服し一つのものをやりとげた達成感を感じさせる教育を推進すれば、意欲を生み出し社会の中で生き抜く力を向上させることができる。そして、そのことが新たな意欲を生み出すことにつながるであろう。</p> <p>研究内容・方法 基礎学力の定着をはかるための個に応じた指導法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導法の工夫・・・少人数制授業、習熟度別授業、チャレンジタイム ・教材の開発・・・補充、発展的内容の教材開発 ・評価の工夫・・・評価規準、評価基準の具体化
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成 ～基礎学力の定着をはかる指導法の工夫と生きる力を引き出す集団活動を通して～</p> <p>仮説 個に応じた指導法の工夫、自らの生き方を考える学習活動の工夫、自治能力を育てる集団活動の工夫を行うことで基礎学力の定着を図り、得られた力を教科学習や集団活動の中で生じる課題を克服する力として活用し、やりとげる教育を推進すれば、社会の中で生き抜く力を向上させることができるであろう。</p>
--------	--

平成 15 年 度	<p>研究内容・方法</p> <p>基礎学力の定着をはかる指導法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中共通の生活、学習規律の確立（小中連携） ・指導法の工夫・・・朝読書 少数制授業 習熟度別授業 チャレンジタイム PCを活用した授業 <p style="text-align: center;">徹底指導と主体的学習を組み込んだ授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の開発・・・補充、発展的内容の教材開発 ・評価の工夫・・・評価規準・評価基準を組み込んだ年間教育課程の作成 <p style="text-align: center;">評価をいかした指導法の工夫</p> <p>生きる力を引き出す集団活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団活動を通して育む自治の力の明確化 ・学級集団づくりの道筋、原則の共通理解 ・自治の力を育む集団活動の評価方法の工夫
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成 ～基礎学力の定着をはかる指導法の工夫と生きる力を引き出す集団活動を通して～</p> <p>仮説</p> <p>個に応じた指導法の工夫、自らの生き方を考える学習活動の工夫、自治能力を育てる集団活動の工夫を行うことで基礎学力の定着を図り、得られた力を教科学習や集団活動の中で生じる課題を克服する力として活用し、やりとげる教育を推進すれば、社会の中で生き抜く力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科における基礎学力の定着 ・豊かな人間性の育成 ・自治の力の育成 <p>研究のまとめと公開研究発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年間のまとめ ・公開研究発表会 11月17日（水）午後予定
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

平成14年度は、研究主題の中の「活用する学習成果」を、「学習の中で身につける力」すなわち「基礎学力」ととらえ、学習活動の中で基礎学力の定着を図るために、数学科を中心に学習形態（指導法）の工夫を中心に研究を進めてきた。少人数制授業及び習熟度別授業は、「わからないところを先生に聞きやすい」、「自分の理解度に合わせて学習できるからやりやすい」と生徒には好評であった。しかし、コース選択の結果、人数にかたよりがでることが多く、個別指導でにくいという課題も明らかになった。さらに、研究を進める中で授業の中で理解していても、時間がたてば忘れ、学習内容がなかなか定着しないということがわかってきた。本年度は、中学校で学習がスタートする教科であるが、学力差が生じやすい英語科でも少人数制授業を取り入れ、数学科と英語科を中心に理解とともに定着を視野に入れた指導法の工夫について次のように研究実践を進めてきた。

平成14年度末に実施したCRT等の結果から生徒のつまずきを分析

分析結果を考慮しながら、学習内容による、少人数制授業の学習形態を工夫

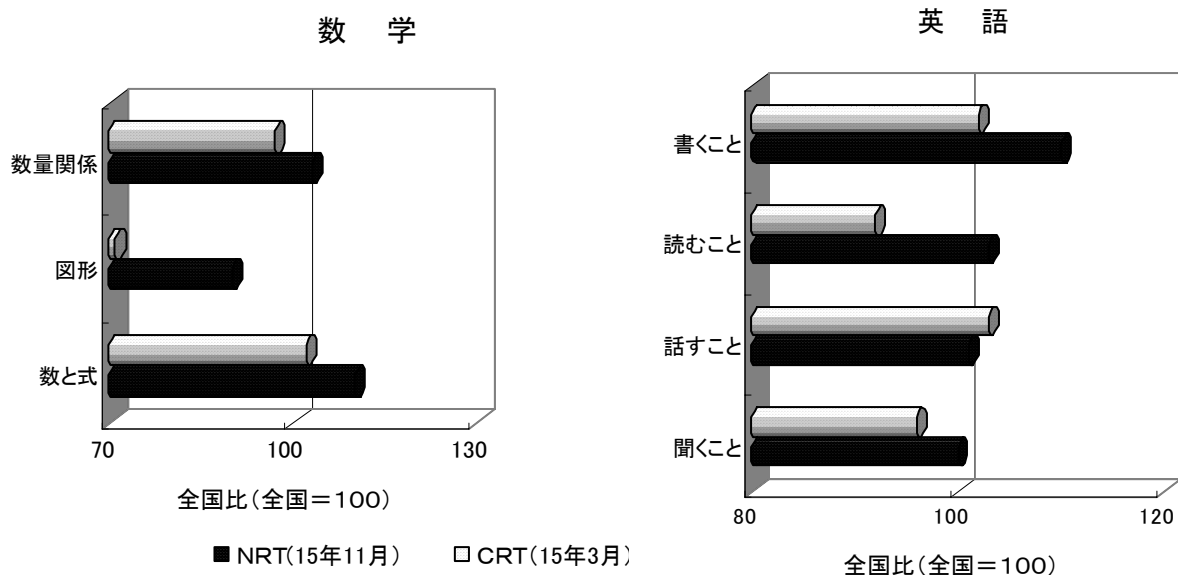
- ・ 均等割少人数制授業
- ・ 習熟度別少人数制授業

1時間の授業の中で理解と定着を図るための、徹底指導と主体的学習場面を組み込んだメリハリのある授業展開の工夫

生徒のやる気を引き出し、教師授業改造に生かせる自己評価カードの工夫

基礎学力の定着をはかるための、生徒の学習状況やつまずきにに応じたチャレンジタイム、家庭学習の問題の工夫

下のグラフは、現2年生が平成14年度3月に実施したCRTと平成15年度11月に実施したNRTの数学と英語の結果である。いずれも範囲は1年生のものである。



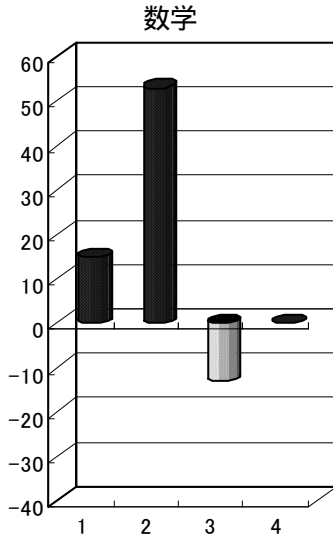
- ・ 数学科の「図形」については今後の指導がまだ必要であるが、「数と式」「図形」「数量関係」の3項目いずれも全国比が伸びている。
- ・ 英語科は、今年度より少人数制授業を実施したが、少人数に分けることで、英語を使う機会が増え「聞くこと」「読むこと」「書くこと」3項目について全国比が伸びている。

これらの結果より、今年度の研究実践の成果として数学科・英語科における基礎学力は定着していると考えられる。

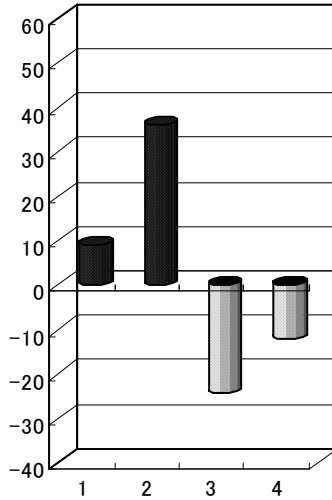
都道府県名	大分県
	駅川中学校

2. 今後の課題

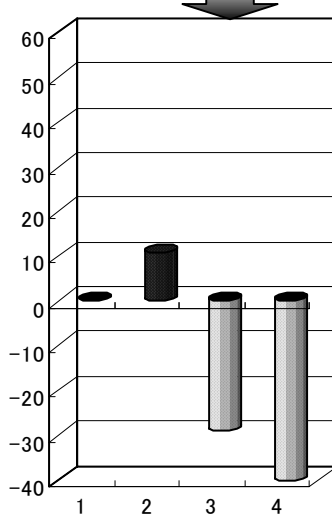
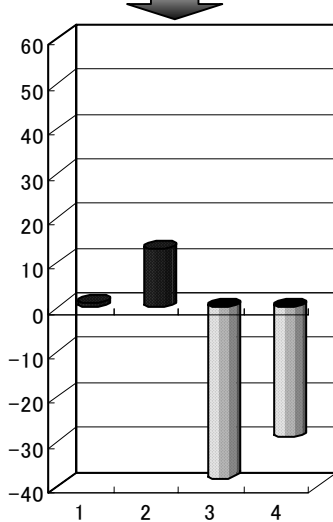
勉強の内容がよくわかる



英語



進んで手を挙げて答えている



- 1...よくあてはまる
- 2...どちらかといえばあてはまる
- 3...どちらかといえばあてはまらない
- 4...まったくあてはまらない

右のグラフは、少人数制授業における生徒の意識調査の結果である。上のグラフは勉強内容についての問いであるが、英語・数学ともに多くの生徒が「勉強の内容がよくわかる」と答えている。対照的なのが下のグラフの「進んで手を挙げて答えている」という問いである。進んで発言しようとする生徒が少なくなっている。英語のNRTの結果でも、「話すこと」の項目が全国平均には達しているものの、CRTよりやや劣る結果が出ている。少人数制授業では、一人ひとりに個に応じた指導ができるため、「わからない」と全体の場で意思表示をしなくても個人的に聞くことができ、このことが、授業における積極性に欠ける一因になっているのではなかと考えられる。

本校が育てたいと考えている「困難を克服する力」は、自分自身の課題に積極的に取り組むことができ、生涯学習の上で現在・未来に向かって生きる力である。今後は、教科学習の中でもっと積極的に活動する学習活動の工夫が必要である。また、教科学習だけでなく、生徒会活動など集団として取り組む生徒活動や豊かな人間性を育む学習活動の中で自ら考える力を養い、主体的に活動する力を育てていきたいと考えている。

本年度は、教科・心の教育・生徒活動の3分野での研究を深めてきたが、次年度は、それぞれの分野で学んだ力をいかし、意見をぶつけながらお互いに学びあう学習活動を工夫することで「困難を克服する力」を育てていきたい。

学力等把握のための学校としての取り組み

1. 定期的な学力調査の実施
・中間テスト、期末テスト、実力テスト
2. CRT、NRTの実施
3. チャレンジタイムでの定着度調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 日時 平成15年6月26日
場所 宇佐市立駅川中学校
テーマ 学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成
対象 本校教職員 駅川ブロック小学校教職員 宇佐市初任者研修対象者
学校評議委員
* 駅川ブロック (駅川中 駅館小 豊川小 西馬城小の教職委員72名)
2. 日時 平成15年7月7日
場所 三光村中央公民館
テーマ 学校間連携推進地域連絡会
対象 市町村教育委員会学校教育関係者 中津教育事務所管内小中学校長
3. 日時 平成15年8月6日
場所 宇佐教育会館
テーマ 駅川ブロック各校の研究内容発表及び学校間連携のあり方について
対象 駅川ブロック小中全教職員
4. 日時 平成15年11月26日
場所 宇佐市立駅川中学校
テーマ 学習成果を活用し、困難を克服する力をもつ生徒の育成
対象 本校教職員 駅川ブロック小学校教職員 宇佐市10経年研修対象者
保護者参観 学校評議委員

次の項目ごとに該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数制指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		